

前略、市史編さん室より

『刻地蔵』にまつわる伝説と清見城

市指定文化財である刻地蔵には、次のような言い伝えが
残されています。

応永27年(1420)12月29日、池田信濃守が城主を
務める清見城が、知覧の武将・佐多親久に攻められた。
落城寸前、信濃守は家老の息子に、夫人と姫を連れて
城を脱出させた。姫たちは洞窟に身を隠したが、城が
焼け落ちるのを見て、死者の霊を弔うため、仏像を彫り、
完成すると餓死した。このため、刻地蔵は「餓死が御
ぜん前」とも呼ばれている。

今から605年前の12月末に起こったこの出来事の舞台と
なった清見城は、池田の清見岳頂上付近にあったとされま
すが、その詳細ははまだ分かっていません。

山城とは

清見城のように、山の頂上や尾根、中腹に築かれた中世の
城郭のことを「山城」といいます。山城は、自然の丘を台形
状に造成した複数の「曲輪」からできています。曲輪の頂上
には、簡易で質素な建物が建てられていたとされます。石垣
や天守閣がないのも特徴です。

また、防御性が高いため、戦の時に領民が逃げ込み、城内
に長期間居住した点が、江戸時代の城と大きく異なる特徴
です。山城は全国各地に数万カ所も築かれてきましたが、江戸時
代の一国一城令で、大部分が廃止されました。鹿児島では、
その後も管理され続けたところが異なっています。なお、幕
末の地誌『三国名勝図会』には、指宿市内には9カ所の山城
があったことが記されています。

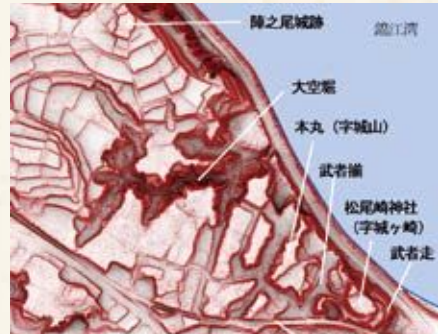


三国名勝図会に記された山城(太字)

指宿城跡(松尾城跡)

指宿の山城で最も規模が大きく、政治的中心であったの
が『指宿城(松尾城)』です。指宿城跡は面積が15ヘクター
ル以上あり、13カ所の曲輪が確認されています。

曲輪には「土塁(土の壁)」をめぐるし、水がない堀であ
る「空堀」で周りを囲い守っていました。また、松尾崎神社
が置かれた曲輪の東側斜面には、弓矢で敵を攻撃する施設
である「武者走」があり、西側には兵士が集結する広場であ
る「武者揃」がありました。城の中心の「本丸」は、神社の西
側の曲輪だったことが判明しています。



指宿城跡のMPI赤色立体地図(Q地図・国土地理院)

山城の現地調査で新たな発見!

中小路の原田城跡は、指宿氏の分家である原田氏の居城
とされ、金毘羅神社の社殿がある丘が城跡とされてきまし
た。ところが、近年の専門家による調査によって、神社の西
側の50mほど高い山間に、城の本体が所在することが発
見されました。原田城跡の詳細は今後の現地調査で、さら
に明らかになるでしょう。



金毘羅神社の裏山には原田城跡がある

山城調査に協力をお願いします

昭和60年刊行の『指宿市誌』は、山城を巡る歴史に関し
ての記述が少なかったため、今回の市史ではその詳細に触
れるべく、山城の現地調査を実施する計画です。私有地への
立ち入りなどについて皆さまのご理解とご協力をよろしくお
願いいたします。

指宿市の古い資料や写真などの情報を集めています

ご自宅にある古いものが大切な資料
かもしれません。情報がありましたら、
ご一報ください。

2次元コードからも連絡できます



総務課 市史編さん室 ☎080-8210-1656